

桜新町アーバンクリニック訪問診療を見学させていただいて

全てが初めての経験でしたが、特に、治療方針や薬の決定に患者さんとご家族が参加していることに驚きました。今回の見学では、薬の種類や服用方法、訪問医療サービスを利用するかしないか、入院をするかしないかについて、医療者と患者さん・ご家族がお互いの考えを確認し一緒に意思決定をしている場面が多くありました。病院では、医療者が提示した治療方針や薬を患者さんが拒否をすることは少ないのが実情かと思います。ここまでやって初めてPCCといえるのだなと感じました。

また、患者さんとご家族が非常に傷つきやすい心身状態で生活していることにも驚きました。病院では退院患者さんを「おめでとうございます」といって送り出しますが、退院で全てが解決する訳もなく、退院後も治療と心身のストレスは続くことを目の当りにしました。そのような状態で地域社会に暮らす患者さんとご家族にとって、在宅医療は大きな支えになっていると分かりました。

さらに、訪問診療に同行する看護師が限られた時間で、生活面のアセスメントと支援を実践していることも知りました。手際よく診療の補助を行いながら、患者さんに「お通じはどうですか?」「昨日は眠れましたか?」と声かけをしたり、ご家族に温罨法や腹部マッサージの方法をお伝えしたりしていました。さらに、患者さんの容態変化を予測した物品の準備と訪問スケジュール調整、地域病院との連携等、在宅看護の幅広い役割を学ばせて頂きました。

看護を学んでいる学生としてはもちろん、医療コンサルティングに携わりたいと考える身として、多くのことを学ばせて頂きました。このような機会を与えて頂き本当にありがとうございました。

2015年10月28日

柏木早穂